

【社会参加について】

～4割が仕事以外の社会参加はしていない

～社会的条件の改善のためには「労働時間・労働条件の改善」が必要

～「くしろ男女平等参画プラン」の認知度は増加

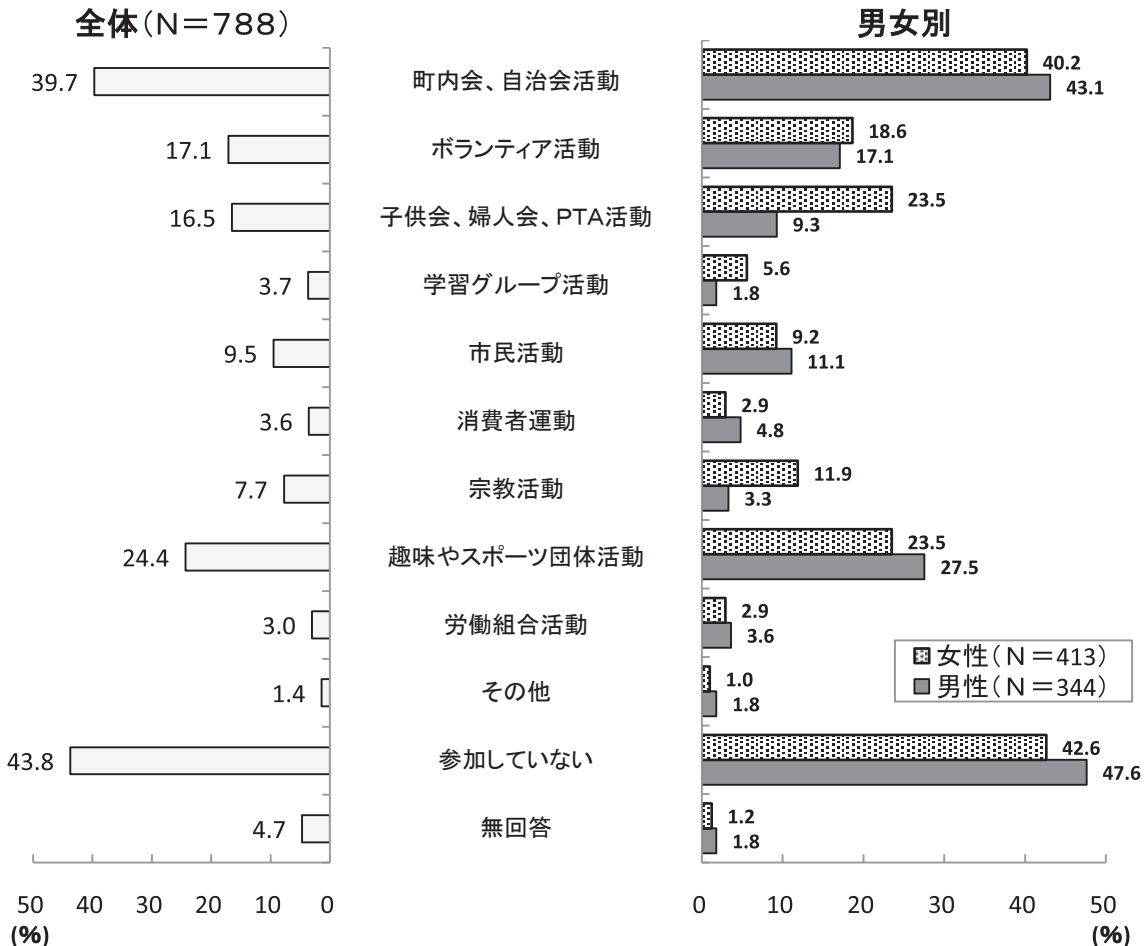
・仕事以外にどんな社会活動に参加しているか聞いたところ、全体で「参加していない」が43.8%と最も高く、次いで「町内会、自治会活動」39.7%、「趣味やスポーツ団体活動」24.4%、「ボランティア活動」17.1%の順に高い割合となっており、男女別も同様の傾向がみられた。女性の「子ども会、婦人会、PTA活動」が23.5%で、男性の9.3%に比べ、比較的高い割合となっている。前回調査では「参加していない」という項目は設けていなかったが、ほかの高順位的项目については前回調査と同様の結果となっている。

・社会的条件の改善については、「労働時間・労働条件の改善」が男女ともに最も高い割合を示し、女性では「雇用の拡大と経済的な自立」「労働の正当な評価」「男性の理解と協力」の順に続き、男性では「男性自身の自覚」「雇用の拡大と経済的な自立」「労働の正当な評価」の順に高い割合となっている。「男性自身の自覚」と答えている人を男女別にみると、女性が男性に比べ10ポイントも高い傾向がみられた。

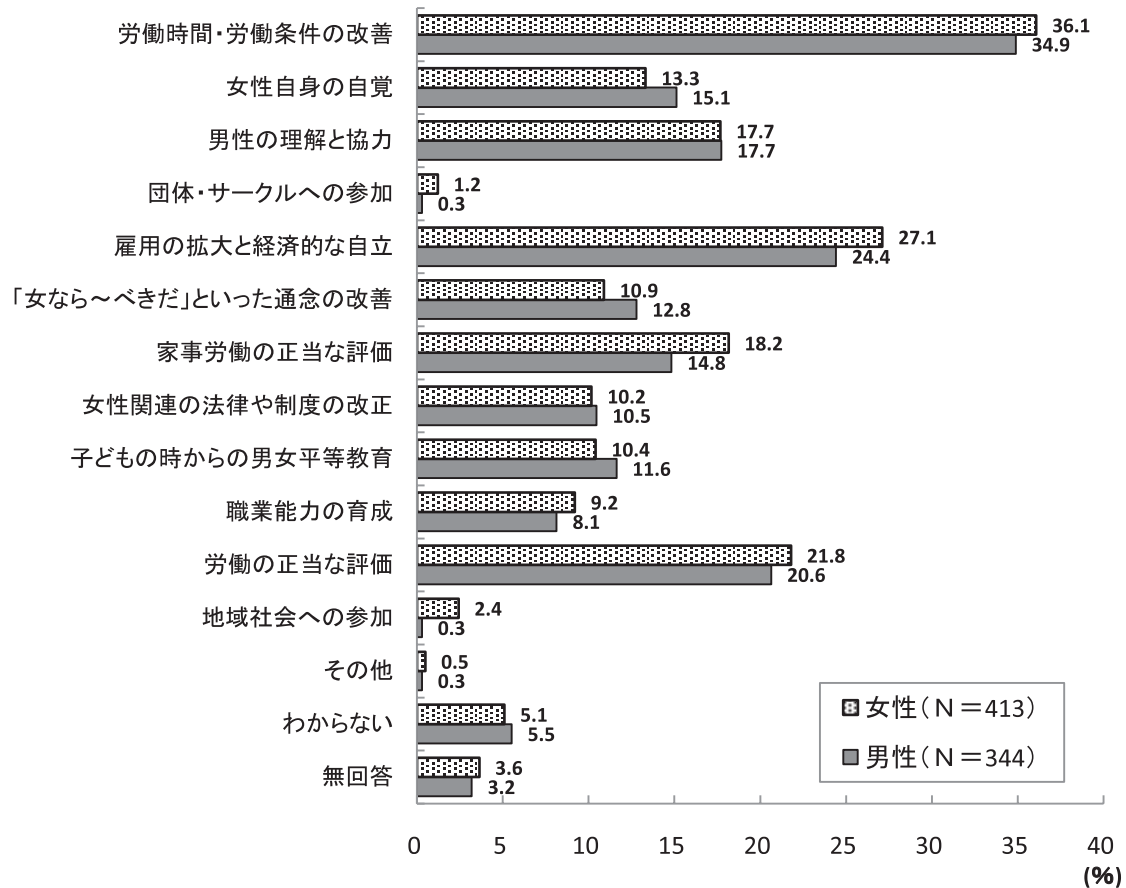
・「男女共同参画社会基本法」など知っている言葉について聞いたところ、女性では「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律」（DV防止法）が63.7%、「男女雇用機会均等法」61.0%、「育児介護休業法」43.6%の順で高い割合を示し、男性では「男女雇用機会均等法」60.5%、「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律」（DV防止法）57.0%、「育児介護休業法」46.5%の順となっている。

・「釧路市男女平等参画推進条例」や「くしろ男女平等参画プラン」については、ともに10%前後の割合となっており、まだまだ知られていない傾向がみられたが、プランについては前回調査よりも5～8ポイント増となっている。

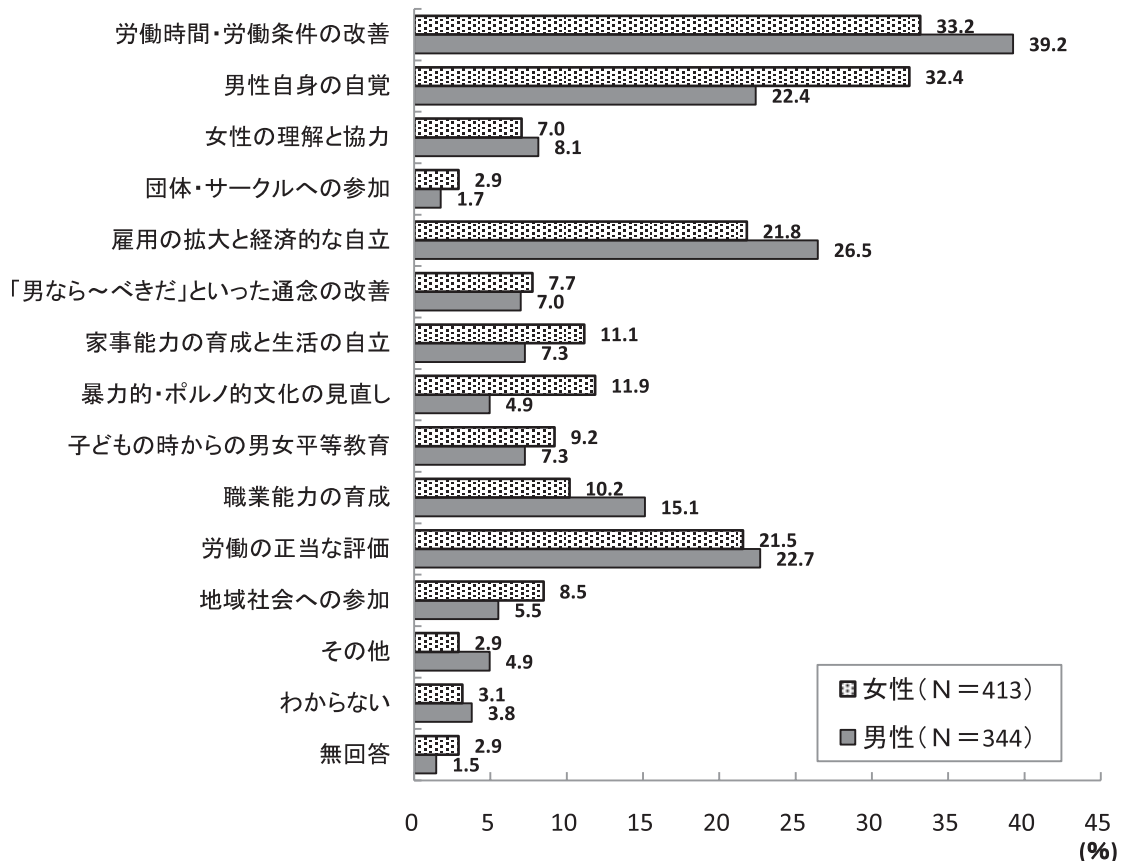
問26 あなたは仕事以外にどのような社会活動に参加されていますか。（複数回答）



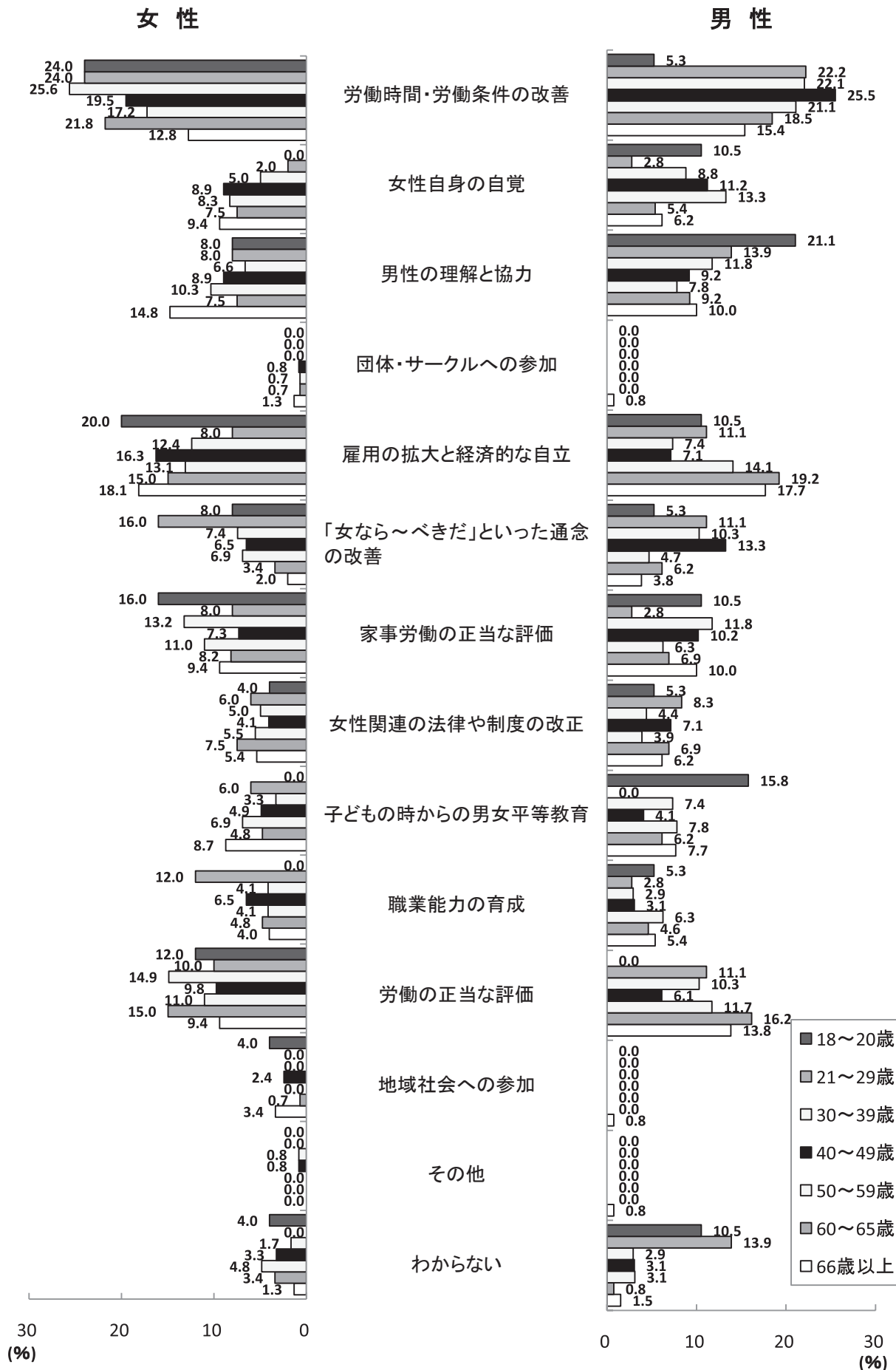
問27 女性がおかれている社会的条件の改善のために、必要だと思うこと。(複数回答)



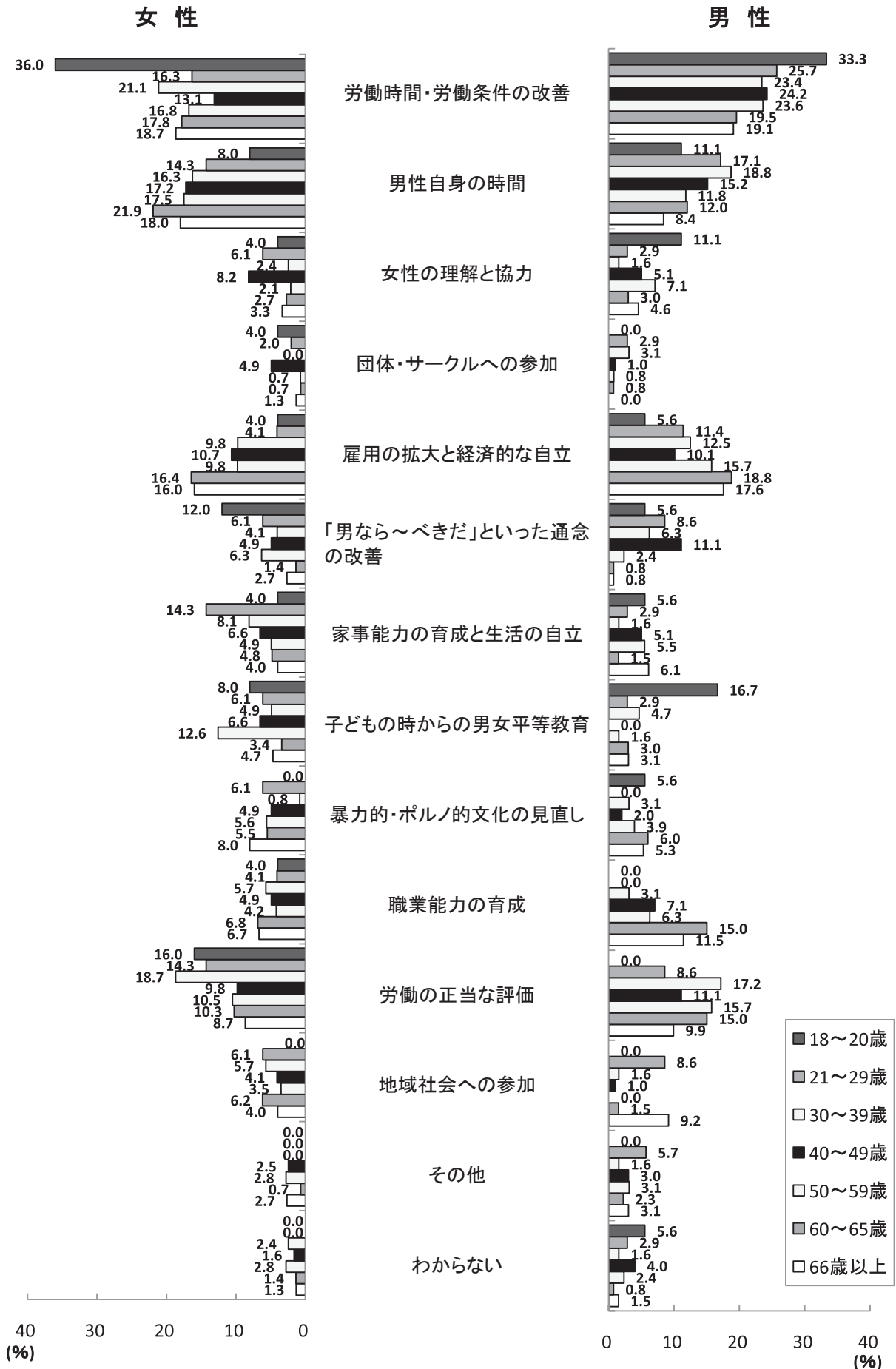
問28 男性がおかれている社会的条件の改善のために、必要だと思うこと。(複数回答)



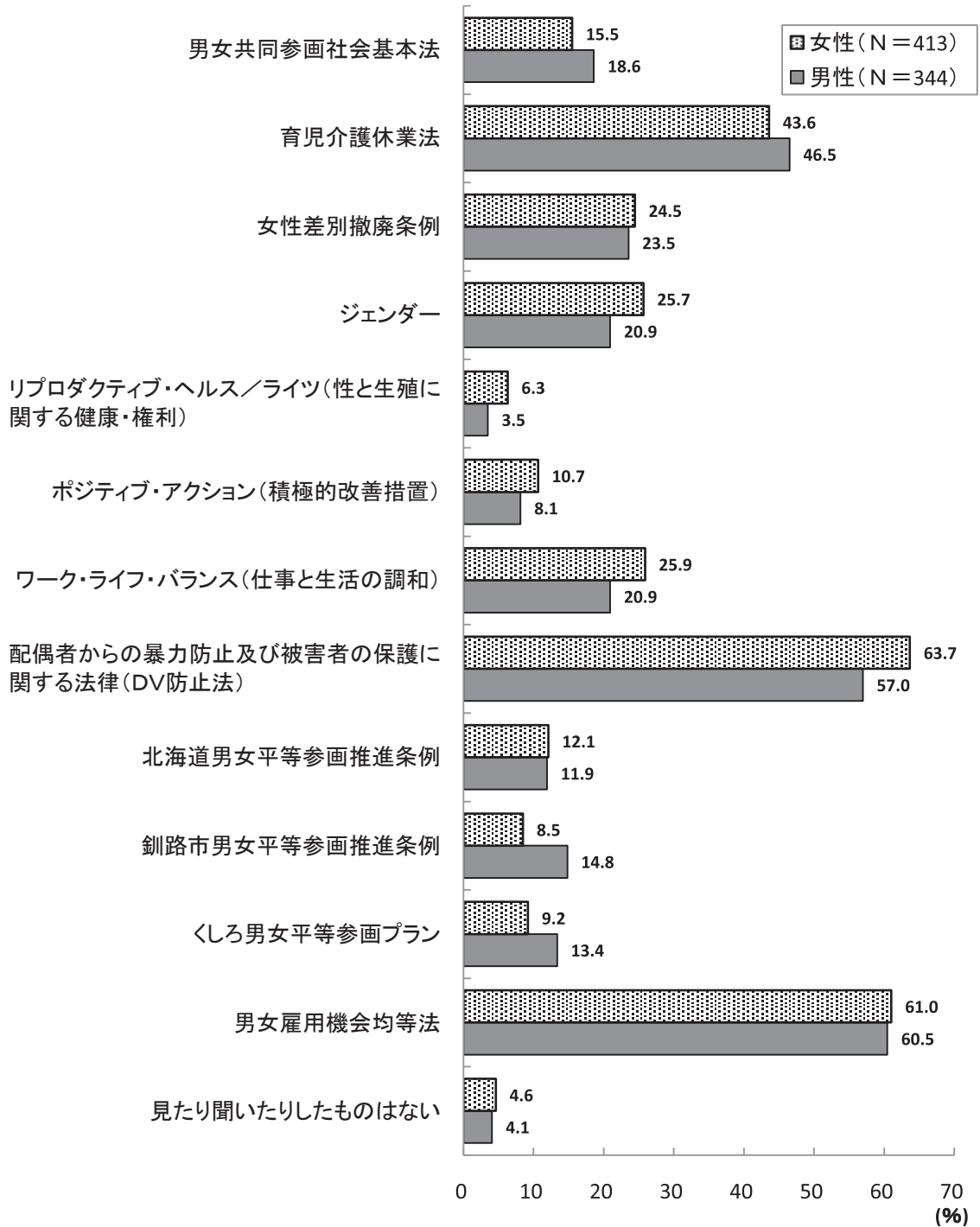
女性がおかれている社会的条件の改善のために、必要だと思うこと—性別・年代別回答



男性がおかれている社会的条件の改善のために、必要だと思うこと—性別・年代別回答



問28 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものは何ですか。(複数回答)



◆全体を通して ～前回調査と比較して～

- ①「男女の地位の平等感について」は、全ての分野で“男性優遇”が減少しており、特に「職場」「社会通念や慣習」「家庭生活」で減少が目立っている。
- ②固定的性別役割分担意識については、共感しない人の割合が増加し、性別による役割分担意識が少しずつ薄れてきている。特に「共働き家庭での役割分担」では、「どちらでも手の空いている方が家事や育児をすればいい」とする考えが男女や年齢に関係なく増えている。
- ③「家庭内の仕事の分担について」は、依然としてほとんどの項目で主に「女性」が担っている割合が高くなっているが減少傾向にはある。いずれの分野も「男性」あるいは「夫婦が平等に」の割合が少しずつ増加しており、わずかではあるが男女平等参画が進んでいる。
- ④「人権について」は、DV、セクシャル・ハラスメントの被害を自身が受けた人の割合は前回調査より減っているが、まだ1割くらいの方が被害にあっているという結果がでており、前回調査同様、被害女性のための相談機関や保護施設の整備を求める声が大きかった。
- ⑤「高齢化社会・介護について」は、依然として「健康のこと」や「経済的なこと」で老後の生活に不安を感じている人が多く、「公的福祉サービスが十分でないこと」も不安と感じている。自身や家族の介護については、多くの人が「できるだけ家族の負担を軽くしたい」と考えており、「介護・医療保障の充実」や「公的年金の充実」を強く望んでいる。
- ⑥「女性の就労について」は、「女性が働きやすい環境にある」と感じている人が前回調査より大幅に増加しているが、女性が働くことと家庭との関係では「結婚出産後は家事・育児に専念し、子どもの手が離れたら家庭に影響を与えない程度に働く方がよい」と考える人が多い。働く環境は改善されてきているが、現実では、女性には仕事よりも家庭生活優先を望む声の大きい結果となっている。仕事と家庭の両立のためには、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が必要と考えている人が多くなっている。
- ⑦男性が育児休業や介護休業を取ることにについては、「他にいない場合はとることもやむを得ない」と考えている人が男女とも5割を占めてはいるが、まだまだ男性が育児休業や介護休業を取ることへの抵抗感は消えないようである。
- ⑧「社会参加について」は、4割強の人が仕事以外の社会活動に参加していないと回答しており、仕事が忙しい、経済的な余裕がないなどの理由が推測できる。社会的条件の改善のためには、労働時間・労働条件の改善や安定的な雇用の確保による経済的自立が必要と過半数の人が考えている。
- ⑨今回の調査で、「釧路市男女平等参画推進条例」や「くしろ男女平等参画プラン」の認知度の低さを数字で確認することができたことから、今後一層、条例の周知をはじめとした啓発が重要になると考えられる。